明治三十年二月十八日印刷
明治三十年二月二十日發行

婦人衛生雜誌

第八拾七號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第八拾七號
目次

講演

◉日本在來火鉢の衛生利害に就て　藥學士　丹波敬三君

衛生叢談

◉乳母のえらみかた◉犬に接近する爲めに起る諸疾病◉衣服の事◉乳呑子ある母幷に乳母に一言を呈す◉人造葡萄酒の害◉産褥養生法◉種痘强制の警視廳令◉三府四港の天然痘◉印度慘狀◉種痘に就ての注意◉天然痘覺報◉種痘經過中の心得◉黑死病の媒介物◉大日本婦人衛生會記事◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第八拾六號
目次

講演

◉生理解剖學講義（第七、八回）　醫學博士　坪井次郎君

衛生叢談

◉アルコール並日本酒の利害◉鑵詰肉の注意◉日光の作用◉日本人の榮養◉肉類の注意◉靴下の注意◉出産時日の預定法◉乳房の强健◉日本人の壽命◉長壽者統計◉天然痘に關する訓令◉全國天然痘患者統計◉八丈島天然痘豫防法◉水の種類◉天然痘患者の數◉全國赤痢病の統計◉バルトン博士衛生意見◉臺灣のペスト◉我國の生殖器病と治療法◉黑死病と理髮店◉大日本婦人衛生會記事◉廣告數件

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

皇太后陛下崩御

嗚呼　皇太后陛下には崩御あらせ玉ひぬ　九重の大御心を推し奉るだに畏し天の下ゆすりて誰か之を慟哭し奉らざるものあらん地の限りふるひて之を哀悼し奉らざるものあらん天昏く地朦く只長夜の闇をたどるが如し億兆の臣民恐懼して誄び奉るへき詞を知らず謹みて茲に敬悼の至情を表し奉る

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎特別廣告

本誌は是迄毎月第一金曜日發行致居候處都合により本月より**毎月二十日發行**と相改め且又**毎月本會集會の通知**は本欄内に掲載して別段御通知不申上候間何卒右御承知奉願候也

◎總會通知

◎來三月六日第一土曜日午後一時より麴町區内山下町華族會舘に於て**總會**相開き左記先生の講演及**半年度報告役員の改撰**擧行致し候間萬障御繰合せ御來會有之度候也

追而役員投票用紙は御手許へ御廻し申上候間總會之節御持參被下度萬一御出席御差支の際は來三月五日迄に本會事務所（下谷練塀町四十三番地宛）御送附奉願上候也

演題	講師
一生理解剖學講義	醫學博士 坪井次郎君
一演題未定	ドクトル 新井古芳君

明治卅年二月二十日

私立 **大日本婦人衛生會**

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第八拾七號（明治三十年二月二十日發行）

講演

◉日本在來火鉢の衛生上利害に就て（婦人衛生會十二月於納會）

藥學士　丹波敬三君　演說

今日私は日本在來火鉢の衛生上利害に就て御話を致したいと存じます、總べて冬の季候になりますると、若干か溫度を人工で拵へて室内を溫めませぬと、餘程身体が萎縮致します、されば寒い時は身體の萎縮しない樣にするにはドの位ゐの溫度にしたら宜いかと云ふに、場所に依つて一定することは出來ませぬ、例之ば浴場の如きは衣服を悉く脱して這入りまする處故、餘程溫度を高くして置きませんではなりませぬ、大抵攝氏の二十三度位ゐが適度でございます、ソレから平時仕事をする室とか、或は學校の教場等は十九度から二十度位ゐ、寢室は、寢まするときはあまり室の溫さは却て惡い、成るたけ寒い方がからだの爲めには宜い、併しあまり寒くては眠つきが惡い故、適度の溫は保たしめなければなりませぬ、乃ち十五度乃至十四度位ゐが宜い、併し病人の居りまする房室は、矢張り十八度位ゐの溫がなければなりませぬデ前申したやうに仕事を致しまする室内の溫度を適宜に保つて置くと、身體が萎縮しませんで樂に仕事が出來ます、併し是れより溫度が高過ぎるで萎縮の憂ひは有りませぬが、自然と身体に餘計疲勞を感じます、其證據には煖爐の傍などの大へん

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

温い處で半日も働きますと非常に疲れます、只今申した樣に適度の温を取ると云ふことは最も肝要でございます、其温を保たしむるには冬太陽の光線の温まりだけでは迚も只今申した丈けの温度を得ることは出來ませぬ、ソレ故何かソレだけの温を與へるものを拵へて而して温めなければなりませぬ、ソレはいろ／＼有りまして煖爐を焚いて温め、或は蒸氣を通じて室内を温め、又は日本在來の火鉢を以て温めます、併ながら煖爐を以てし或は蒸氣を通じて温むるのも其根源は皆一樣に炭で有ります此炭と云ふものが我々の生活上に大へんに用を爲して居ります、今日は其炭の効用と併せて火鉢と煖爐との利害を述べたいと存します。此炭と云ふものは化學上に於ては是れを炭素と名ける、今日本で單に炭と云ひまするのは、通常あなた方の御遣ひになるものを指すので有ります、此炭でありまするど形が無い形がないと申したとて何も無形と云ふ譯ではない、天然に結晶の形をして居りませぬ、併し此炭素の中には結晶をしたのと結晶をしないのと、又は結晶でないとの境に在るものとございます、ソレに因ッて我々に使用される處も大に違ひます、貴婦人方が裝飾品として用ゐらるゝ指輪若くは襟飾等の金剛石……あれも矢張り炭、炭素の結晶で有ります、ソレ故化學上で説きますると、今日炭を燒いて温めて居るのも、金剛石を燃やすのも異ッたことはない、只金剛石は極ッた形をして居る、所謂結晶をして居る、炭は結晶形が有りませぬ、結晶と結晶ならさるとの違ひだけで、其價格も、亦調法せらるゝ處も雲泥の相違です、又結晶をして居る金剛石と

炭との間にあるものを黒鉛と名けて即ち木筆などに遣ふ、木筆の心は炭であるのです、是れは結晶の形が細かくして、金剛石の樣に立派な結晶では無いが、又全く結晶で無いと云ふ譯にも往かない便ち炭と金剛石との間、所謂結晶と無結晶との間に在るものです、炭素は此三種の區別がありて、極く結晶したのが夜光石、即ち金剛石結晶の分るか分らない、その境にあるものが筆鉛或は黒鉛とも名け、第三が普通の炭でございます、此普通の炭の中にも亦色々種類が有ります、最も新らしいのが通常燒きまする炭、天然に出來かけた處の炭の新らしいのが泥炭トルフと云ふ、次を褐炭（褐色をおせるもの）是れが年數を經ると石炭、又年數を積むと無烟炭となる、かく普通の炭の中にも階級が附いて居る、是れは皆無晶形の炭で有ります、此通り種々の形狀に現れて來まして我々の需用を充して居ります、炭と云ふものは何處から出來るかと云ふに、皆有機物から生ずるので有ります、今日世の中に生活して居る動物幷に植物と云ふものは、皆此炭即ち炭素が基礎で有りまして、先づ之を人間のからだに譬へて申して見ますれば丁度骨格で御座います、其骨組みに他の成分が加ッてからだが出來て參ります、又植物も其通りである、然らば生活機能を備へた動物植物ばかりが左樣かと云ふに決して爾うでない、其動物植物から造るものが矢張り皆炭を其中に含んで居るのでございます、例之ば石油の如きものも中に炭素を含んで居る又人體のからだに含んで居る主なるものも炭、即ち炭が基礎で血の樣な赤いものが有る又木の葉の樣な綠色を帶びたものもあります、又

砂糖のやうな白い色を以て居るものゝ基礎が炭、砂糖は炭素酸素水素とが結付きて居る、ソレ故今砂糖の中から水素と酸素を取ッて仕舞うと、其成分の基礎となッて居る炭が殘ります（試驗に由ッて示さる此砂糖の中の成分たる酸素と水素とを取ッて炭素だけを殘すと云ふが如きは極く容易い試驗であるが、其他總べてが斯くの如くであるのです、ソレですから此生活機能を有して居る動物植物ばかりでなく、其動植物から出來るものは悉く皆炭素を基礎として居ります、ソレ故此化學などでも炭素化學と云ふと、有機物から出來たものを研究致します、以前はこれを有機化學と申して居りましたが、近來は炭素化學と名が變ッて來た位ゐで御座います、併し此通り動植物自らが炭素を含んで居るばかりでなく、夫れより製したものが悉く炭素を含んで居る故に炭素を取る所がなければならない、其炭素は何處から取るかと云ふに動物は之を植物より取る、輙ち植物性のものを食べて其中より炭素を取ります、穀類豆のやうなものを食べて其中より炭素を取つて動物のからだの基礎を拵へます、植物は其炭素を何處から取るかと云ふに空氣中より取ります、空氣中には炭酸と云ふものが有ります其炭酸を植物が取つて養ひといたします、植物はこれを何の部分から取るかと云ふに、綠色を帶びて居る木の葉の中より取る、サウして其炭酸を分離せしめて炭素と酸素とにいたします、サウして炭素を止めて酸素を空氣中に吐き出します、是れが丁度動物と植物に循環をなしまする最も要用の原因となッて居ります、動物は御承知の通り不斷酸素を

吸收して居ります、室内の空氣よく通ふやうにしなければならぬといふのは、何の爲めかと云ふに則ち酸素の多き樣にせんが爲めです、からだの中の不潔物を外に出して酸素を取るのが趣意で呼吸をするので有ります、處で空氣中の酸素は動物が吸收して居るばかりでは、遂になくなつて仕舞ひますけれども植物が炭酸を分解して酸素を吐き出して仕舞ふ植物の吐き出したる酸素は動物の生活に最も必要で其の吐き出したる酸素を動物が吸收して、からだの中に出來た炭酸瓦斯を吐き出す、植物はその炭酸を取つて斷えず酸素を吐き出して居ります、サウすると動物は之を取つて、而して自分のからだに植物性の食物を食べて炭素が出來ると、その出來た、酸素の一部分が炭素と化合して又炭酸となッて體外に排泄されます、サウ云ふ樣に相迭に交易循環をして居る故、兩者とも更に不都合を來たさぬのでございます、動物が炭酸を吐き出しても、植物に若しも分解する力のなかッたときには炭酸瓦斯が空氣中に充ちまして、竟に幾年間の後には酸素が無くなッて仕舞はなければならない、又植物は動物が炭酸を拵へて吳れなければ自分のからだに炭酸を取ることが出來ないで、詰り生活が出來なくなります、家の周圍に多くの植物を植ゑまするると云ふものは、人間の吐き出した炭酸を植物に與へて、酸素をソレだけ餘計に取ると云ふ樣な處から來ましたので、ソレ故に庭前若くは家の周圍に植物を澤山植えた方が宜いと云ふのです、けれども是れは根のある植物ばかりでなく、活花でも宜しい又鉢植でも日光が射りさへすればりの機能を持ッて居ります、併ながら

夜になると反對……光線が射りませぬと、今まで吸ふて居ッた炭酸を吐き出して、却ッて酸素を吸ふと云ふ樣になッて仕舞ふ、ソレ故夜間就眠のときは其房室に鉢植の植木若くは活花などを置くのは多少害が有ると云ふのは輙ち此理由、斯う云ふやうに動物と植物との間は始終循環をして居るから、此動物なり植物なり兩者の体から出來る總てのものは皆悉く炭素を含んで居る、此炭素は植物の養ひになるばかりでなく、此炭素を含みたるものが室内を煖むる處の即ち燃料の最も貴いものになります。

さて炭の中でも木炭、石炭、褐炭等の物は是れを燃して孰れが經濟か、又ドレが一番都合が好いかと云ふことを見まするには、第一に燃力を量ります、第二には煖力を量らねばなりませぬ、此燃力とはドウ云ふものかと云ふに、丁度燃やすもの、一「キロガラム」……大約二「ポンド」（日本の貫目で凡そ二百六十匁）是れだけのものを燃やして而して發る熱、其一「キロ」の物を燃して發る熱で、水の幾「キロ」を一度だけ煖めると云ふことを量る例之ば零度の水を一度に煖めるとか、或は二度を三度に、三度を四度に煖むるとか云ふ其一度だけを煖むる力を燃力と云ふので有ります、又煖力とは二「キロ」の物質を燃やして、其燃えた爲めにドレだけの溫度が起るかと云ふ事を量るのです、此燃力及び煖力を時の相場、假令ば石炭一貫目に就て幾干と云ふ相場と比較したものを燃價と名けるサウすると燃價の一番廉いものが最も利益です、併し只直段だけが廉くても熱を發す力の少なきものはなんにもならない、燃力煖力を初めに算出

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

して置いて、而して其燃償と比較して後にその廉不廉と云ふことを知るのでございます、此に例を擧げて見ますれば先程御話をした泥炭は燃力二千七百四十、煖力二千百十……斯うあると泥炭を一「キロ」だけ燃やすと、二千七百四十「キロガラム」の水を一度だけ温める事が出來る、或は二千百十度迄で寒暖計の度を高めるだけの熱を起すので有ります、又木炭は燃力七千四百四十、煖力二千四百八十あります、サウすると木炭は一キロを燃やしますると、二千四百四十「キロ」の水を一度温め或は寒暖計の度を二千四百八十だけ昇す力が有ります、石炭は燃力五千煖力二千二百五十（石炭の質に因ッて一樣ならざれど、今申すのは皆な平均數であります）石炭を一キロ燃やすと五千キロの水を一度だけ温め、寒暖計の度を二千二百五十だけ温めることが出來る、シテ見ますると、石炭より木炭の方が力が強いのでございます、尚ほこれにも増して強いのは無烟炭、ソレ故單に熱を強く發すと云ふ點だけなれば無烟炭が得です、併ながら價を比較しますれば、木炭の方が餘程御徳用になります。

炭を用ゐて室を煖めますに就ては、煖爐の造構が衛生上又經濟上に最も關係が有ります、通常斯う云ふ煖爐だと（室内の煖爐を指して）百の温を拵へることが出來る、併ながら此室を煖むるには三十だけしか煖むることは出來ない、それより餘計に煖めやうと云ふには、斯う云ふ管を（煙筒を指して）ぐる〳〵幾重にも捲いて置かなければなりませぬ、ソレにしても三十より以上の温を出す樣に用ゐる事は容易に出來ない、而して此煖爐で餘り

日本在來火鉢の衛生上利害に就て

澤山の温を起すやうにせむとすれば一時に燃料を餘計に入れますから自然燃ゆることが惡くなッて煤が出來る、此煤と云ふものは空氣中に逃散して健康上非常に有害です、ソレ故恢復期の患者或は虛弱の人老衰の人などには大へんに惡い、又健康の人と雖も隨分加答兒などを起すことが往々有りますから煤は餘程注意をしなければならぬもので有ります、ソレ故煖爐は煤の無いやうに成るべく温を多く起し得る樣に造搆するのが最も肝要、然らば煖爐はドウ云ふ性質を備へて居るのが、衛生上經濟上一番宜いものかと云ふに、第一には其室内の需用に應じて、餘計に熱を起すことも出來れば、又尠なく熱を起すことも出來る樣にしてなければなりませぬ、第二には發りたる熱が極く平均に總体に其室の壁は素より襖の如きも皆同じ位ゐの温度を持つ樣にしなければならない、煖爐の近接は非常に煖いが、壁天井に冷めたいと云ふやうなのは大へんに惡い、室内全体の壁襖時計等に至るまで皆同じ温に煖まるやうにするのが一番宜い、第三には其煖爐の爲めに室内の空氣が餘り乾燥に過ぎざるやうにしなければならぬ、空氣の乾燥するのはからだの爲めに大へんに惡い、而して煖爐の瓦斯が室内に這入らない樣にしなければなりませぬ、かく衛生上の点から云ふときは、煖爐は極く完全したものでなければなりませぬので御座います。

又經濟上より謂へば前申す通り、用ゐたる炭の爲めは起る所の熱が成るべく餘計に目的を達する樣に室内を煖める爲めに燃やすのですから、外の目的にならぬ樣に煖爐の造搆が出來て居らなければ

ありませぬ、今我邦在來の火鉢と煖爐とを比較ると、最も完全の煖爐になければならない性質の部分が火鉢に在るか煖爐に在るかと云ふに、只今申す通り完全なる煖爐は温の多寡を自由にするやうに出來て居らなければならない、ソレは煖爐でも火鉢の方でも出來る、只煖爐は餘計温の要るときには燃料を多くし、又火鉢なれば一個を二個にする様にして温を増すことが出來ます、第二の性質の熱を平等に與へると云ふ事に至ッてはドウかと云ふに煖爐に在ッてはソレが出來兼ねます、勿論斷えず晝夜とも煖むるとか、或は夜間は用ゐないでも晝は間斷なく煖めて居ると目的は達せらる、何故なれば此煖爐で室を煖めると、西洋室は元より日本の室内は其爲めに室がひどく煖まる、室全體では無い、煖爐の近傍の空氣が非常に煖まる、サウすると其煖くなりたる空氣は輕くなッて上に昇る、サウするとソコに空氣が無くなります故、其あとに周圍の冷めたい空氣が聚ッて來る、而して煖まると矢張り上に昇ッて往きます、素より空氣の流通は自由で有りますから、後へ〳〵と外の方から冷めたい空氣が這入ッて來ます、ソレ故に一度火が消ゆれば忽ちに其室内は冷たくあッて、ドウしても其處に長く辛抱して居ることは出來ませぬ、是れは平等に温を與へることが出來ないで一局部を強く煖むる所以で有ります、日本の火鉢は其方は徳、日本在來の火鉢は一度に強く煖める事は出來ませぬが、併し其室に朝から火鉢を入れて置くと、大へんに温いと感ずる程の温度では有りませぬが、併し其火が消えたからといッても亦左程に甚だしく寒いやうにも感じませぬ、ソレ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本在來火鉢の衛生上利害に就て

故火鉢を以て煖めた房室はからだにエッタリと覺へますが、煖爐は一時に温くなりますが、其感に長く居ると心地が惡くなります、さればとて之を取り去れば急に寒く感じます、優劣は孰れかといふに、此一段は火鉢の方が宜い、ソレで第三の非常に乾燥を生ずると云ふやうな點に至ると、此煖爐と雖も注意して居れば乾燥を防ぐ事が出來ます其爲めに上に水が置いて有ります、斯樣に注意がしてありますれば一室内の煖爐に因ッて示さる)室内は常に濕氣を以て居ッて健康上にも誠に宜い併し室内に煖爐の在る處でも十軒に八軒までは上に(煖爐の上部)水を具ふるやうにしてあるにも、拘らず、入れてあるのは無い位ゐ、ソレ故に空氣乾燥して室の立附は素より總て其處に在る道具までも皆乾燥してはねて仕舞ひます、啻に器具のみならず身体も其通りでございます、然るに火鉢あれば水を置いて豫防をしないでも左樣な害は有りませぬ、第四煖爐の爲めに室内に瓦斯体塵埃其他種々の不潔物が這入ッてはならぬ、此一段になると日本の火鉢は甚だ困難を感じます、煖爐とても全く害が無いとはいへない、炭の出入の爲めに非常に塵埃が立ち、又不完全に燃ゐる爲めに瓦斯を發します、併し構造さへ良く出來て居れば宜いが、構造が惡いと室内に不潔物を出すことになります、日本の火鉢では如何に構造を良くしてもなんでも有害の瓦斯を室内にてしらゑ、室内の空氣をして不潔に致します、ソレ故前の三ヶ條は煖爐より火鉢の方が宜い、併し第四の個條は火鉢の方が劣ります、ソレで其中の有害の瓦斯を取除く樣に注意をしまして、而して第四の點が今少し注意

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が出來ましたならば、日本の火鉢の方が宜いと思ひます、勿論かく說きましたからとて煖爐と云ふものが必ずしも火鉢にかなはぬと云ふのではない構造が完全であれば煖爐の方が宜いけれども在來の構造の不完全のものならば、寧ろ火鉢の方が宜い、併し前にも言ふごとく火鉢であると瓦斯を發するので誠に困ります、火鉢はドウ云ふ瓦斯を發するかと云ふに、燃料に因ッていろ〳〵違ひますが、主に炭酸酸化炭素の二ッの瓦斯が起るのです此炭が空氣中の酸素と結び着いて酸素が多ければ炭酸が出來、酸素が尠なければ酸化炭素が出來る、例之が(以下記號を書して示さる)今空氣中の酸素を炭に一ッ遣ると炭酸が出來る、其炭酸が又炭に結び着いて酸化炭素が出來ますのです、炭酸と酸化炭素との二ッの中では酸化炭素の方が害が大きうございます、炭酸も亦害が無いとはいへないが左程に大なる害は先づ無いといッて宜い、多くの人の聚合しまする所、即ち學校寄席芝居等の室內の空氣の不潔になるを恐れて、空氣の善惡を測る事を致しますがあれは、炭酸だけでは無いので、我々の呼吸器より發する炭酸の中に有害の瓦斯が雜りて有る故、ソレが大へんに有害のものでございます、今斯樣に(傍らなる火鉢を指して)炭が燃えて炭酸が出來る、併ながら此室內に炭酸が少々餘計になつたからとて其方は別段害は有りませぬけれども酸素の尠きもの即ち酸化炭素の方は非常に害が有ります。火鉢に火を起すと、炭酸と云ふものが出來ます而して其上に又火を亞ぎますると其處の空氣が尠くて炭酸ばかりになッて居る故、其中の酸素が取られて酸化炭素と云ふものが出來

ます、ソレはドウ云ふ瓦斯かと云ふに、今此火鉢の火の上に試驗紙(亞格魯兒刺巴胃談試驗紙)を置きますると黑くなります、是れ即ち有害瓦斯乃ち酸化炭素が有ると云ふ證據で御坐います(試驗の上示さる)けれども火の眞紅に發つた所には酸化炭素は有りませぬ、能く發りたる火の上に黑い炭を載せた時分に亞格魯兒巴刺胃談試驗紙を翳しますると黑く變色致します、此黑く致しまするものが大へんに毒でございます、ドウか之を黑くずる瓦斯をこしらいぬ樣に工夫をしたら宜しからうと考へますソレには室內に炭を持つて來ても火の上に置かない樣にし、或は他の所にてよく發火したるものを座敷の火鉢に移すやうにするとか、若くは櫻炭のやうな工合に半分黑くあつて半分は赤く發つて居ると云ふのなら宜い、能く發つた火の上に炭を置くと云ふのは一番危險でございます、此事柄に注意をして瓦斯の發生しないやうにすれば炭を以て煖めるのが一番に宜い、能くおこッて居る時でもからだにユッタリト當る故、假令火が消えても寒く感じないで宜い、前にも屢々言ふが如く是れが完全の物でこれより、宜いものは無いと云ふ譯ではないが、從來の不完全の物の中では一番宜い、此酸化炭素の害は實に想像するよりは甚だしいので、鼠の如き兎の如き或はモウ少し大きな動物、狗のやうなものも此瓦斯の澤山のものにあたると、直に斃れて仕舞う、此瓦斯の中には酸化炭素と炭酸と二ッ有りますが、炭酸の方は左程害はございませぬ、炭酸の混じたる空氣なれば鼠などでも二三十分位ゐ平氣で活きて居りますが酸化炭素の立ッときには大へんに苦みます、ドウ云

ふ理由で苦みを感ずるのであるかと云ふに、酸化炭素が血液の中に這入りまして血と結び着いて、血液の作用が出來なくなるので御座います。

玻璃管に藏めたる普通の血液と酸化炭素を含みたる血液とを示さる、純血液は少しく黑色を帶び、酸化炭素を含みたるものは其色眞紅を呈す

此酸化炭素が血液の中に這入りまするゝと、本來血液の中に酸素と云ものが、有ります、血液、はドウ云ふ作用をして居るかと云ふに、肺臓より酸素を取り、靜脈から再び肺の方に炭酸を吐き出します、肺臓より必要なる酸素を取ッて之を撒布し、不必要なる炭酸を肺より呼出する作用をなすのであります、處が酸化炭素が血の中に這入ると、酸素を肺臓に於て取る力が無くなり、又炭酸を肺に運搬することが出來なくなります、是れが裁判化學では大へんに必要、以前は人が自身に燒死したのであるか、縊殺して火の中に抛り込まれたのであるかの判斷は出來なかッたが、今日では天一坊がおさん婆を殺して推し込んだのであるか、おさん婆自ら死んだのであるかと云ふことは判斷することが出來ます、何故に分るかと云ふに、縊め殺して放り込んたものは已に呼吸の力が無い故、血液中に酸化炭素が無い、けれども自分自ら爐の中にすり込んで燒け死んだのならば幾らか息をして居る其間に酸化炭素を吸いますから血液の中に一部分が殘ッて居ります、

此時普通の血液と酸化炭素含有の血液と試驗の區別を數本の鎔閉したる玻璃管に就て示さる即ち普通の血液を煮沸したるものは灰褐色なれども酸化炭素含有のものは煉瓦赤色なり又酸化

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本在來火鉢の衛生上利害に就て

炭素含有の血液に那篤倫滷液を加へたるものは赤色凝固塊をなし之を薄層とするときは丹又は朱の如き赤色を顯はせども普通の血液にては同法にて黒色粘液狀となり薄層となせば綠褐色を呈す

其外血液の中の酸化炭素を逐ひ出して亞格魯兒パラヂウム液の中に通しまするとき之を沈澱させます仍ち之を一ッの證據とすることが出來ます、其極く近い例は、蠣殼町で亭主が中氣で始終臥て居る處が女房が或日外に遣ひに出た其留守にランプが壞れて燒死んだと云ふ事がありましたが、是れは新聞にも出て居りましたゆへ御承知の事と思ひます、是れは女房が夫を縊殺して後火事を出して他へ出したのでは無いかと云ふ嫌疑がかゝッて、その血液を試驗して呉れといッて依賴して來ました、之を解剖の方でも試驗し、又解剖の如何に拘らず私共の方で撿查しました處が、血液の中に酸化炭素が少しあッた、ソレで縊殺して火事を出して往ッたのではない、全く中風症の病人がランプを點じ樣として過ッて其儘其處に倒れたものであると云ふ判斷を致しました、解剖の方でもサウ云ふ徵候があッた、デ全くランプを點け樣として過ッて出火したものであると云ふことにあッた、かくの如く裁判上にまで大ある利益が有ります、併し前申したやうに大へんに有毒のもの故、若しも此死斯が立ちまするとき僅かと雖も害を受けます、以前はサウ云ふ事は左程憂ふるには足りませんでしたが、近來は日本の家屋でも玻璃などの障子にして建附が昔よりはよくなッて居ります、ソレ故火鉢を二ッ三ッ置きますと頭痛を起し甚だしくある

と卒倒するなど例が澤山に在ります、ソレは火のよくおこッた處に黑い炭を遣る故サウなるのでございますから、なんでも炭酸にして仕舞ッて酸化炭素にならぬ樣に注意をすればサウ云ふ事は有りませぬ、完全なる煖爐を拵へてサウ云ふ害は實際無いと云ふ事が出來る迄は、日本在來の火鉢を用ゐて酸化炭素の出來る恐れの無いやうに注意をすれば、決して西洋人が煖爐は一番結構のもの、火鉢は非常に不健康のものと申す事に妄信をせん方が宜いと思ッて此事を申上げたのでございます。

衛生叢談

本欄は可成有益にして正確ならしめんが爲め今回本會に於て大學の川上雅量氏を增聘して每號本欄の寄稿を依托致し候に付此段謹告致候也

◉口演

私は大學教授弘田博士の御紹介に依りまして今度此婦人衛生會の衛生叢談の一部分を瀆す榮を得ました何は偖未だ修業中の身であります故に貴孃方に御滿足を與ふるやうなる叢談は到底御覽に入るゝことは出來ませぬ加之御承知の通り衛生學と申しまするものは其範圍は廣くとも申上ぐるとは余り御座りませず尙は其中の婦人衛生の事をのみ穿鑿致しますと每月出版の雜誌に二ヶ年位も出すと跡とは種切れとなりてしまう樣なる有樣にて如何んとも致しかたが有りませぬ由て一般の衛生即ち公衆衛生の事を時々御覽に入れます、故に右御推察ありて御見捨てなきことを御願申上ます

◉乳母のゑらみかた

乳母てふ者は生みたる母の其兒に盡すべき義務を委だねらるゝ者なれば其責は重くして大なるものなり抑々我國に於て古來乳母を傭ふに唯其乳汁の多寡に就きては少しく顧みたるも其他の緊要なる點に到りては全く問はず今日より考ふれば實に卒忽なることと謂ふべし

記者常に謂へらく假りに此不法なる選みかたの爲め夭折したる小兒を統計するを得たらんには驚くべき多數に至りたらんと古は之れを知らずして看過したるのみ近頃日新の文明に至り衛生學及び其術の漸く世人の腦裏に侵入したるより亦た此法の衛生上の大なる要件たることを理得するに至りたるは大に喜ぶべきのことなりとす然れ共唯其要件たるを知るのみにして未だ其ゑらみかたを知らざるは實に歎ずべきの至りなり世人或は言はん乳母を選むは醫士の役目にして素人は之を知るの必要なしと之れ大に誤れるものなり然れ共父母自から之れを知らざるも知人に醫士あればとて偏へに他をのみ頼みて自ら顧みざるが如きは愚なる甚だしき者なり、醫士は乳汁の生理的性質即ち善惡及び婦の疾病体格等を診察して確定するを得べしと雖とも其他の事實に於ける觀察取捨は始終之れに親接する父母自から之れを爲さゞるべからず即ち學術兼備なる醫士の撿査と恰悧なる父母の觀察扶助とに依て始めて善良なる乳母を得て之れより生ずる害毒を未然に避け以て親子の幸福を全ふするを得べきなり、

乳母を選まんとすれば左の數項を注意すべし

第一、乳母となるべき婦既に一二子を産み其兒其乳房に由て皆な强健の發育をなしたるもの（尤も

其子强健に在れば乳母奉公に出るの必要なし其子が死去したるに因て奉公すると云へば醫士に依頼して其子の死したる原因等を問ひ糺し醫士の判斷に任すべし）を選むべし但し乳母の撿査に慣るゝものは言語を巧みにして或は他の健康なる兒を借りて我兒と詐はり或は初産なるを既に三回目の産なりと言ひ以て不當の信用を得んとするもの少なからず然れば果して其兒は彼れの産み養ふ所の者なるやを探知し乳母の職務の練否及ひ其他の信すべき證據に由て其産は二三回のものなるやを辨知すべし

第二、我子の誕生より三四週以前に分娩したるものを佳とす何となれば凡て乳母は産后二三週の間は大抵乳汁に不足を覺へざるも此日數を經過すれば其量の著しく減少し來ると屢々あり且つ既に二三週間哺乳せしめたる乳母に於ては産褥の疾病及ひ乳を哺する刺戟の爲めに發する所の乳頭の糜爛（たゞれ）等を來たすの恐れなければなり然れども我れの分娩日と彼れの産日との間五六週以上に至る者は用ふるなかれ何となれば乳の成分は子を産みてより漸々增加し行くものなれば初生兒の胃に適せず反て爲めに胃腸の疾病を起す恐れあればなり

第三、其年齡を問ふべし其最も適當なるは二十年以上三十年以下に在り之れを超ゆるものは宜しからず何となれば二十年前の者は大抵初産にして乳汁の性質未だ乳母たるに適せず又三十年を超ゆる者は既に身体の新陳代謝（生活力の機能）少しく緩慢となるに由て其乳汁の成分及ひ分量に必要なる物質減少するに由るが故なり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

第四、口中を撿査すべし齒列良く且つ强堅にして齒齦鮮紅及び口中臭氣なきものを選むべし之れに反して齒齦の色蒼白にして微少の刺戟（楊子などにて輕く刺く）に由るも出血し易く或は臭氣あるものは貧血（身体の血液減少する症若くは消化器（胃腸等）の虚弱を表するものなり之れらの徴あるものは哺乳に堪ゆる能はざるものなり

第五、乳房を撿すべし即ち其大さ普通にして指を以て試みに壓するに內に實質を觸れ大なる腺塊あるを採るべし然れ共指壓の際恰も魚膠の如くして腺塊を觸れざる者は用ゆるなかれ之れ脂肪に由て成れるものなれはなり又乳房を被ふ處の皮膚は藍色の線亂綜して（靜脉の見はるゝものあり）健全のものを良しとす又乳頭の長さは少なくも一寸五分より二寸五分を有ち指にて壓する時は其頭端にある數多の小孔より乳汁細き線をなして迸出するものを採るべし

第六　其性質を質すべし即ち溫篤にして行狀正しく勉强にして淸潔を好み活潑にして才識あるものは最佳となす、何となれは乳母の性質の善惡と智鈍とは啻に小兒智發の善惡に影響を及はすのみならす又た其体育上に於て至大の關係を有する者たることは人の既に知る處なり記者は此關係の必要あるより世人の考ふるより甚し故に酒を好む者婬佚にして愛情少なき者、剛情にして怒り易きもの等は皆な用ふるなかれ醫士は其性質行狀に就て與からざるに非ずと雖とも殊に其父母の注意して觀察を要する處なり又乳母は都市の者より田野のものを良とす之れ其体は健にして其性は質朴なればなり然れとも田野のものは自然都會の食物

及ひ風習に慣れざるより故郷を慕ふ感情より乳汁の分泌に變化を來たすとなきにあらず之れ斟酌すべき點なり

第七、乳母及ひ其兒の全体を撿査すへし、即ち小兒は營養良く無病ならざるべからず而して乳母は上記の乳房及ひ齒齦の狀性を有し胸部に異狀なく肛門生殖器及ひ口中を精しく撿査するも決して梅毒に罹りし徵なく且つ以前に疑ふべき疾病に罹りしことなく遺傳病なく身体の各部に傷痕なく斜視（ヤブニラメ）吃吶（ドモリ）等の如き醜なくんば可なり、

其他乳汁の成分等の撿査は宜しく之れを醫士に囑托して其指示を乞ふべし、

●犬に接近する爲めに起る諸疾病

我國に於ては歐州の如く犬を愛すると甚しからざりしも近年に至り漸次犬を愛するの輩増加し特に貴顯の家に於ては狆と言ふ犬朝夕人と起き臥し甚しきに於ては三食を畜主の傍らになし敢て不潔と思はざるなり唯不潔のみにして他に危險なければ恕すべしと雖も爲めに遂に一の危險を來たすに至らんことを宜しく顧みて其惡慣を防がざるからす

犬の体中には諸種の寄生虫の占居して就中小膓に寄生する條虫に四種あり此條虫の卵虫は人類及ひ動物の疾病及ひ死亡の原因となるべき者なり其中の三節條虫と云ふは至つて危險にして其長三乃至四ミリメートル（一メートルは凡そ三尺三寸とす而して一ミリメートルは其一千分の一なり）故に肉眼にては容易に見るを得ず、此卵若し人、

牛、馬、羊、豚等の食物中に混じて腸中に入れば卵の外がわをなす薄き膜は消化せられて其中より未熟の虫体を現出す此虫体の一方の端に細き針を備ふ其針を以て腸壁を穿ち又は脉管を穿ちて肝臓、脾臓、腦、肺臓、眼、心臓等中に侵入して多數の卵虫を生む、其他犬の鼻孔中に捿息する五吻蟲あり之れも其長さ四乃至六ミリメートル位にして犬若し噴嚏するときには屢々其卵虫脱出し又は鼻汁と共に流出し人類の食物及び動物の芻草中に混入することあり之れを知らずして食すれば其卵体中に於て變化し多數の卵子を生し終に疾病を起すに至たる、是等の疾病は外國に於ては屢々見る處のものにして未だ激烈なる危險なしと雖とも人の狂犬に咬まれ其傷より發したる狂犬病又（恐水病と云ふ）と云ふは最も危險なる疾病にして到底不治の症なり然れ共狂犬に咬れたる者は皆な悉く此病に罹るにあらず百人中平均三十人位に過ぎざるは僥倖と云ふへし而して狂犬は主めに手飼の犬に少なく山野又は道傍に捿ふ犬に多ければ之れ亦幸なり、此症に藥劑なきにあらずと雖も多くは効能なし之れ歎ずへきのことなり狂犬の徴候は概ね次の如し、

初め此症を發するに當つては犬平常の行爲を變し音聲の調子狂ひ時々怒り又は喜ひ不平の如く又は悲むが如く光明を厭ひ暗處を好みて隠れ眼は充血して赤く細目をなし屢々口を開き乾きたる甚た赤き舌を出し頭の周圍を手にて觸るゝと熱あるを以て犬自から鉄或は石の如き冷き物体を舐め時々嘔吐をなす、此症漸進するに從つて益々不安の狀を呈し安靜に在ること少く屢々右往左往に奔轉し家

外に徘徊し終に狂遊して家に歸るを忘る飼主之れを繋ぎ置くも繩を容易に切斷すべき力を發し都鄙にして別に刺戟となるべき音響なきも忽然壁に向ひて吠ふることあり動く物体を見れば忽ち口を開きて之れを咬むが如き動作をなし物動及び人類を咬傷するのみならず終に同類を噛み殺すにいたる此症に罹りたる犬は液体を見れば屡々嚥下困難即ち飲食物を嚥まんとして咽部壓搾す由て液体を見るを厭ふを以て一名恐水病と云ふなり其他委細の徴候を獨乙國の博士チュルン氏調査したると雖も以下は醫士の職掌に讓るべし

普通の人狂犬に咬まれたれば直ちに繩或は細き紐を以て傷部の上方を固く縛し其毒の血行中に入らざるを防ぎ疵口を壓迫し出血を促がし冷水に石炭酸を溶解したるもの(藥舖にあり)即ち五十倍石炭酸水を以て其部を洗ひ石炭酸水を布片に濕し其部に置き之れを結び直ちに醫士を招くべし

◉衣服之事

健かなる人は非常に暑き處(赤道直下)に居るも最も寒き地に(北極に近き國)住するも身体の温度を寒暖計にて測れば大抵攝氏三十六度半より三十七度半にして大なる差異を見ることなし其度より多き又は少なきは病のためなり而して斯の如く同一の温を保たんには身体の表面より去り行く温熱を調へ保たざるべからず之れを保つには自然に身体の皮膚に於て其作用を備ふると雖とも亦衣服を以て補はざるべからず、衣服は体温の散し去るを遏むるものにあらずして反て之れを一定の度に保つものなり、衣服は昔時よりの經驗と習慣とにより て各國用ふる原料を異にすると雖とも毛織物、絹、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

麻、毛皮、革等を以て製出す而して之れを着すれば体温は一部は衣服中に止まるも一部は物質を通過して放散す而して衣服中に存在する空氣は体より散出する温熱の爲めに温めらるゝが故に体の周圍を取り捲く空氣は假令寒冷なるも身体は温暖にして甚しき障害を蒙ることとなし此体より散出する温熱を外氣に放散することに付きては其衣服は絹なるも木綿なるも麻なるも毛織物なるも革なるも別に異なることとなし且つ衣服の色も熱の放散に大に關係を有す即ち黒き衣服は白きものより暑きことは世人皆な知る處の事なり

衣服は假令多く着するも決して暖かに非ざるものあり体と服との間に空氣の充滿すべき間隙を作ら

その衣服の物質粗にしてその中に空氣を含みおる布片なれば假令少し位沢山着するも甚た寒きことなし故に夜着を日光に曝すときは大に膨脹し之れを着すれば暖く感ず之れ空氣を含ましめたればなり

衣服は身体よりの蒸發を妨ぐるものは用ふるなかれ斯の如きものを着すれば不快に感す即ち護謨製合羽或は桐油合羽の類なり、衣服若し雨或は汗に濕へば体温を奪ひ去ること甚し加之衣服は空氣中に含有する水分を吸收するものなれば少しく濕氣あるものを着すれば寒冷を覺ゆ故に水分を多く吸收せさる布地にして体温の蒸散するを防き實質粗なるものは最も適當なり假令はフラネルは佳良にして革は不良なるが如し

日本服は身体の自然の形態を變せず且つ美術的のものなり即ち廣き袖なれば手腕を壓迫することなく身体を粗に被ふを以て暖く之れを着るに都人と田野の人と自から其態姿を異にす即ち着しか

たの巧拙に依て其人の品位を高下せしむるものなり唯一の非難すべき點を云へば日本服は身体の運動に向ひて少しく不都合の處あるのみ、之れに反して西洋服は運動に適當なれ共其他の點は盡く日本服に及ばず否甚しきに至りては身体自然の形態を損ずるに至る之れ即ち婦人の仕用するコルセット（腹部を細く見するために用ゆるもの）は屢々内臓の形を變ずるものなり、

●乳呑子ある母并びに乳母に一言を呈す

乳房は小兒の啼泣を鎮むる器具にあらず古來の風習として日夜の差別なく泣けば乳笑へば乳とて俗に泣く兒に乳てふ言語をなすに至りたるは實に自然を紊るの甚しきものあり假りに吾人成長の身を以て此の如く不定に消化器（胃腸等）を働かしれば必ず飲食不消化となり胸塞り神氣欝閉氣力衰へ終に体力減じて病を起すに至るべし小兒に乳を哺するも之れと同しく一定の度切るべからず但し小兒は其度數成人より多きを要すべし何となれば小兒は營養分を身体各部に向ひての營養と發育に向ひての營養との二途に要するを以て成人より多量の食物を要す而して其消化力は甚だ薄弱にして一時に多量の食に堪ゆることあたはず故に生れ月及び次月の間は一時半乃至二時毎に一回第三月後は二時より三時毎に一回第六七ヶ月后に至りては三時乃至四時毎に一回與ふべし此の如く時を定めて哺乳する間に小兒若し不安又は啼泣することあるも決して饑渴の爲めには非ずして必ず他に何か原因となるべき事設へば衣帶堅くして痛みを感ずるか或は襁褓尿尿に汚潤せる等に由るものなり又

夜間の哺乳は四時間毎にて宜しとす即ち晩九時に哺乳せしめんならば午后一時に一回乳を與へ次に翌朝五時に一回與ふるへし

古來分娩して二三日は其乳汁に有毒の性あるものとして麻久里と云ふ下劑を與ふるの俗習あるは自然乳汁に妙配あるを知らさるの甚しきものなり何となれは初めの乳汁には特に下痢を催すべき成分を含みをるものなれば決して他を以て之れに代ふるは害あるも益なきことなれはなり

乳婦は小兒と同褥に眠るなかれ之れ母若くは乳母の熟睡する際知らず識らず小兒を乳房にて窒息せせしめたる例屢々なる曩に英國に於て、千六百八十年より千七百九十九年の間に小兒の此原因に依て死したるもの凡そ四万人の多きに至りしことありと云ふ何となれは乳兒は神經の官能未だ全たからざるを以て苦痛に感ずること至つて鈍く且つ体力薄弱なるを以て諸種外部の障害即ち壓迫等を避くるの力なきを以てなり、其他自已の手腕等を以て乳兒の咽喉を壓するか或は褥衣頭枕等を以て之を密閉するときは乳兒は忽ち窒息して倒るゝあり又成人と乳兒とは其体温異なるものなれは即ち乳兒の体温は高きを以て若し同衾すれば高き体温を成人の体に吸收し爲めに乳兒をして余計に温熱を發散せしむるの勞を爲さしむるを以てなり

吾師河本博士屢々講義の際注意して曰く「トラホーム」と云ふ眼病は元と不潔より起る症にして危險なるもなり世俗此症多くして屢々乳母より其乳兒に傳染し之れより一家に及ぼすを見る故に乳母を傭ふのとき眼病をも能く注意すること肝要の一なりと

（以上川上氏寄送）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉人造葡萄酒の害

近來人造葡萄酒の製造各國に於て盛りになりしは大に好酒家の爲めに喜ぶべきの事なり原と酒類は身体の營養に向ひては最も益少なく唯神經を興奮する性質を有するものなれ共之れ又欠くべからざるの飲料なり而して眞の葡萄より製出したるものは多量過度に用ひざれば然くほどの害なし或る病症には之れを藥に混じて與ふれば功を奏す然るに人造葡萄酒は通例合せ物故に其香味色等は一見して容易に眞物と分別するを得ず之れを製するは赤酒、拘櫞酸、アルコール、砂糖、水を以て合せたるものなり、而して赤酒はアルコールに或る色素を溶解したるものにして色を呈し拘櫞酸は酸き味を付す、斯の如きものを滋養と思ひ日々飲料となせは身体に障害設へば頭痛或は下痢或は便秘等を發し反つて健康を破る原因となるにいたる寧ろ興奮劑として用ふるは日本酒の純良なるものに如かず健康なる人に於て既に害を釀すべき飲料を知らずして病者又は平常健かならざる人に滋養品として用ふる輩屢々記者の目擊する所なり故に一言以て注意とす

◉産褥養生法

妊婦の子を娩みたる跡を褥婦と云ふ之れ必ず褥中に居らざるべからざるを以てなり故に此時を産褥時と云ふなり而して産褥は又妊娠及ひ分娩に等く全く生理的の中に在るを以て正順の經過をなすに於ては自然に復するものとす然れとも妊娠及ひ分娩の際發りたる身体の諸部の變化殊に膨大となりたる子宮は漸々縮小して故形に復せんとし而して弛緩したる子宮繫帶(子宮を吊るす靭帶)は未だ全

く緊力を得ざるを以て動もすれは子宮の位置を轉すること多く加之分娩の際大量の血汁を流出して身心共に興奮性となり且つ乳汁分泌の發動を平常に在りては障害とならさる少々の變化も大患の原となり若くは永生の痼疾を致すを以て攝生保護を忽せにすべからざるものとす是故に産婦は必すや一定期の中は褥中に安臥せざるべからす而して其褥に臥すべき期は少なくも二週間以上ならさるべからす斯くして后漸次に以前の生活狀態に復るべし但し全く通常の勞作を爲すに至るは産后六週日以上を經ざれば不可なり又産婦は生殖器を清淨に保つこと必要なり故に分娩するや直ちに豫て設けたる温暖にして新鮮なる褥狀に臥すべし而して之れに臥するや産婦は自ら起つなかれ必す看護人の佑助に依るべし然して斷へす多少流出せる液に由て汚染せる醫敷の交換を要するも先つ第一に暫時眠るを良とす但し臥位は仰臥又は側位に任すへし

褥婦は通常食慾の少なきものあり故に與ふるには肉羹汁、葛湯、鷄卵、白粥の類を宜しとす飲料には淨水、牛乳、廉なる茶（番茶）を以てす而して食慾振ふに至らば鳥獸魚肉を與へ漸次常食に復すべし但し不消化物又は酒類又は香味品は忌むべし

尿屎の通利も注意すへき點なり産后三日に至り便通なきときは灌腸を行ふべし（灌腸料は石鹼温水八オンスに蓖麻子油半オンスを加へたるもの）又輕度の下痢は恐るべきに非すと雖も峻下劑（烈しく下る下劑）は禁すへし故に自家にて灌腸をなす能はすんは醫士に依頼すべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

產褥室は成るべく廣く淸く空氣の流通良く道路又は職工塲の傍あらざる或は出入烈げしからざる居室を撰むべし而して室は鮮明に過ぐるは反て褥婦を興奮するの恐れあり且つ室內は冬に於ては攝氏二十七八度に溫め置くへし而して無益の來訪者を其室に入るゝを謝絕し成るべく心配を爲さしむべからず

（以上川上氏寄贈）

◉種痘强制の警視廳令

過日警視廳令第五號を以て左の如く强制種痘の方法を發布せり

第一條　管外より東京市內及び品川町內藤新宿板橋町巢鴨町千住町南千住町に轉居し又は來宿する者にして左の各號に該當するものは到着後二十四時間以內に種痘を行ひ其證明書を受くべし

一　年齡五十歲以下（生後三十日を經過せざる者を除く）にして明治二十九年一月以降種痘の證を所持せざる者

二　疾病の爲め種痘を行ふ能はざる醫師の證明書を所持せざる者

第二條　第一條の區域內に在る宿屋營業者は同條各號に該當する者にして投宿後二十四時間以內に種痘を行はざるときは之を滯留せしむべからず

第三條　本令を犯したる者は二日以上十五日以下の拘留又は五十錢以上一圓五十錢以下の科料に處す

第四條　本令は發布の日より施行す

◉三府四港の天然痘

本年は近來の激烈なる流行とて今内務省衛生局の調査する處に據れば本月一日より十日迄の三府四港天然痘の實況は東京府患者千二百〇七人死亡三百五十八人京都患者十六人死亡九人、大坂患者六百四十八人死亡二百七十七人、神奈川患者百六十六人死亡二十八人、兵庫百二十三人死亡五十七人長崎患者二十七人死亡四人新潟患者十五人死亡一人なりと云ふ

◉印度慘狀

孟買に於ける黑死病は益々蔓延の勢あり又今回印度に起りし饑飢は過去百年間に起りし饑飢中最も悲慘なるものなりといふ

◉種痘に就ての注意

東京府知事及び警視總監は本年に入りて種痘せざるものに對し必ず種痘すべき旨を嚴達せしが尙昨日に至り左の告示を發したり

警視廳
東京府 告示

家主又は差出人は地内居住人及び止宿人に本月二十五日警視廳東京府告示の趣旨を懇諭し其各項に該當する者は遺漏なく種痘せしむる樣努むべし

家主差配人及び宿屋營業者に於ては地内居住人又は止宿人にして本人及び家人不在の爲め主務官吏臨檢の際種痘濟の證を示すことを得ざる者あるときは其證を取纒め置き本人に代りて之を示すべし

◉天然痘彙報

全國の天然痘は當局者非常の苦心を以て其撲滅に從事し居るに拘はらず日を追ふて益々猖獗の勢ひを逞うし去る一月一ヶ月間の全國患者總數九千百

六十八人即ち昨廿九年一ヶ年間の總計より多きと實に五百八十四人なりと云ふ但し府下天然痘患者は過日來より其筋の注意嚴重なるより市部は三分の二を減少し反つて郡部に於て增加を見るに至れり

◎種痘經過中の心得

目下全國を通して猖獗を極め居る天然痘の流行に就ては其筋に於ても種々注意する所ある趣なるも今醫學士三島通良氏の說く處なりとて種痘經過中の心得を聞き得たれは錄して以て茲に紹介す

○併發病　種痘に就て恐るへきは併發病にして實に丹毒黴毒等に在りとす種痘丹毒は尙之れに腺病膿腫、膿毒症及ひ敗血症等を併發するを以て頗る注意を要す○黴毒、種痘によりて黴毒の傳染せらるゝは實に其原因となるへきものは第一痘苗は黴毒病素を含有するもの第二種痘器械に該病素を附着したるもの第三は受痘の小兒已に黴毒に罹りたるも其病候潜伏して外表せさりしもの之なり○入浴　種痘後の入浴は可成八日の間此れを謹しむべし○衣服　清潔なるを用ゐ就中襦袢は糊强く又は地合荒くして痘疱を摩潰する虞あるものは力めて避くへし○食物、毒斷に及はされとも消化し易き物を撰ひて用ゐ又た大酒を注意すへし○痘疱　大切にして決して搔破り又は痂蓋を剝かすへからす

○其他の餘病　種痘後は往々熱高まりて降らす又は之れか爲め異なる腫物を惹き起す事あり即ち癌腫、結核或は小兒に在ッては百日咳、貧血、窒扶斯及痲疹等の患者を間接に增加せしむるも亦た種痘に在れは尤も戒しめ注意すへきを要す

◎黑死病の媒介物

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

臺灣の黑死病は今は已に地方病の如き有樣となりたるが其媒介物は臺灣の鼠なりと云へるとは專ら醫學社會に傳稱せらるゝ所なりと然るに舊冬中緒方山際兩博士の實地試驗せる所に據れば其鼠の膚毛中に棲める蚤は第一の媒介物たることを發見し試みに其蚤の体中にある黴菌を取りて之を他の培養に移植したるに其培養物は或は立ろに斃死し或は非常の苦痛に陷りたる趣にて實に身の毛も悚つ談なりとて近頃在同嶋の某新聞の社友は報じこせりとなん

大日本婦人衛生會記事

今回　皇太后陛下崩御遊ばされたるに就ては本會々長より左の通り兩陛下の天機を伺ひ奉りたり

皇太后陛下崩御遊ばされ恐懼敬悼の至りに堪へす茲に本會を代表し謹みて天機を伺ひ奉る
右御執奏奉願候

明治卅年一月

大日本婦人衛生會々長
子爵夫人　仁禮壽賀

宮內大臣伯爵土方久元殿

皇太后陛下崩御遊ばされ恐懼敬悼の至りに堪へす茲に本會を代表し謹みて御機嫌を伺ひ奉る
右御執奏奉願候

明治卅年一月

大日本婦人衛生會々長
子爵夫人　仁禮壽賀

皇后太夫子爵香川敬三殿

●大日本婦人衛生會新年例會

一月九日第二土曜日京橋宗十郎町七番地大日本私立衛生會事務室に於て新年例會を開く會するもの三十餘名理學博士長井長義醫學博士坪井次郎二氏の講演あり終りて茶菓の接待福引の餘興ありて四時半頃散會せり

二月例會

二月十三日第二土曜日麹町區内山下町衆議院議長官舍に於て例會を開く會するもの卅五名ドクトル須田卓爾君には幼兒眼病の保議に就き演說せられ次に醫學博士坪井次郎君には解剖顯微鏡等に照し演說せられ四時半頃散會せり

廣告

○入會者

自一月至二月本會入會者左の如し

○新山きく子の紹介に依り
兵庫縣東出町二丁目六十五番地 通常會員 藪まき子

○鈴木まさ子の紹介に依り
神田區錦町三丁目二番地看護婦會 田中きみ子

○事務所へ申込に依り
本郷元町二丁目四十四番地 山本すが子
深川龜住町十六番地 薄井八重子

○贊成員山本幸巖君の紹介に依り
神田區柳原河岸第十二號地 山本繁子

○田尻とも子の紹介に依り
芝區二本榎三十五番地 鹽濱琴子

○金子きみ子の紹介に依り
第一醫院 堀かた子

○新潟市會へ申込に依り
新潟市上旭町一番町四十六番戸 長野むら子
新潟縣地方裁判所官舍 田村みち子
東堀通九番町 伊野宮發世子
寺裏通 高野紀伊子
新潟病院内 伊知地つる子
同上 本間れい子
醫學町二番町 稻垣つる子

廣告

旭町一番町廿九番戸　早川はる子
上大川前通一番町　鍵富信子
新潟病院内　竹内いし子
同上　澁木ゆきの子
東堀通九番町　伊野宮貢君
學校町通り二番町五十八番戸　櫻井とめ子
賛成員

○鳩山春子の紹介に依り
小石川新諏訪町十三番地　終身會員　上原豊子

○三浦敦子の紹介に依り
赤坂區青山南町二丁目百四十七番地　平原親子

○粟塚龍子の紹介に依り
牛込區佐土原町一丁目貮番地　鍋倉夫人

○轉居者

芝區三田四國町二十一番地へ　石河里子
滋賀縣近江國大津市字百石町八十五番屋敷へ　笠原索子
麻布區東町四十四番地へ　加藤定吉君
本郷區西片町十番地は十號へ　今泉幸子
相州三浦郡逗子九百六十五番地へ　内田芳子
本郷區湯島切通し坂町卅七番地へ　岡田秀子
新潟縣南蒲原郡加茂町朗雄平方へ　渡邊すが子
長野縣長野市狐池三百八十番戸へ　安田小鹿子
四谷區西信濃町八番地へ　野崎わか子
牛込區市ヶ谷藥王寺町十四番地へ　村山つる子
衆議院官舍へ　鳩山はる子
本郷湯島六丁目七番地へ　土屋しん子
第一醫院へ　金子きみ子
麻布材木町六十三番地へ　鈴木てる子
芝新櫻田町十九番地へ　梅田くわ子
麻布網代町一番地へ　藤谷保子
岡山縣淺口郡長尾村大字長尾二十五番邸へ　山川春二君
臺灣憲兵隊本部内へ　今村いと子
臺灣臺北縣臺北病院内へ　本間いと子
臺灣臺北大稻埕稻新街臺北病院内へ　石堂みち子
京橋區靈岸島町四番地中村勇次郎方へ　谷千代子
麴町區上六番町三十六番地へ　高山さよ子
四谷荒木町二十七番地へ　千田米子
四谷鮫ヶ橋へ　財部さわ子
麻布東町へ　加藤辰子
小石川原町十三番地木村方へ　清水ふき子
本郷弓町二丁目二番地へ　齋田とき子

私立大日本婦人衛生會

●寄附

一金貳圓也
會長仁禮壽賀子より

一高等化粧品　大箱一個
會員福原とく子より

一金五拾錢并に鎌倉江ノ島全圖　三葉
會員關つる子より

◎入會者

○細川靜子の紹介により

相州鎌倉郡鎌倉小町
特別會員　關　德子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹賀新春

明治卅年一月一日

四谷區霞ヶ丘町三十四番地
成立看護婦産婆會々主

西田嶺子

謹賀新年

明治卅年一月一日

日本橋區本町二丁目十二番地

齒科醫 高橋孝子

初春の御壽幾久しく御祝ひ申上候

中野悦子

恭賀新禧

併祈高堂壽福

明治三十年一月元旦

山梨縣東八代郡石和村

鹿兒島喜久子

あら玉の年の始の御壽千代かけて祝ひ納めうら〳〵かしこ

本所龜澤町二丁目三番地

明治卅年一月吉日

中村武子

謹みて新年を祝し奉る

相州逗子櫻山

一月一日

德富靜子

恭賀新年

明治三十年一月一日

丹治春子

謹賀新年

併會員之健康賀す

醫科大學第一院小兒科

明治卅年一月一日

金子きく子

恭賀新年

明治卅年一月一日

本鄉弓町三丁目二十二番地

飯盛挺造

謹賀新年

明治卅年一月一日

東京赤阪區一ツ木町八十一番地

羽田三緒子

恭賀新年

明治卅年一月一日

筑前鞍手郡勝野炭坑

安達芳子

謹賀新年

併會員之萬歳祈る

明治卅年一月一日

麻布區簞笥町六十四番地

淺井枝子

新年の御壽御めで度祝納めうら〳〵

下谷仲徒町三丁目二十七番地

明治卅年一月元旦

岡田秀子

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

めて度きてえあけまつるにあん
あたらしきとしのはじめのはきて
と

明治卅年一月一日　相洲三浦郡東浦賀町大ヶ谷七十番地　田尻知子

謹賀新年

明治卅年一月二日　芝區榮町十三番地久松家にて　俊野いわ子

奉賀新年

伯爵夫人　松平充子

新年御目出奉賀候益々御會の隆盛を祈る

明治卅年一月一日　京都上京區塔之段毘沙門町　村岡ひさの子

新年のことほぎ幾千代もかぎりなく芽出度申納候

明治卅年一月一日　大坂西區本田一番町廿六番地　岡田美壽子

謹て新年を賀す

明治卅年一月一日　神田區猿樂町貳番地　有泉房子

廣告

夫れ人の病に臨みては醫藥と共に看護も亦必要欠くべからさるものにして其看護の全からんことを欲せば技術の巧拙素より言を俟たざれども温厚篤實にして克く患者の心氣を安んぜしむるところありて大に力あることを信す妾等感するところの看護法と多年實地に經驗するところを以て懇切に患者に接し諸事輕便に十分便益を與へ申し時に臨みては進むて慈善的看護に從事し世の病災に臨ませらるゝ方々を救護致さんと存候何卒看護婦御入用の節は本會へ御申込被下度候

麻布區簞笥町六十四番地
十字看護婦會
月　日　會長　淺井梅子

追て本會は看護法修業のもの或は看護の心得あるものゝ入會を許し又看護婦の養成を致し候御企望の方は御申込被下度候

明治三十年二月十八日印刷
明治三十年二月二十日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中徳三郎
印刷者　神田區小柳町十三番地　小高良造
印刷所　神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可毎月二十日發行　（定價金拾錢）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN